

# 平成 29 年度第 2 回滑川市地域公共交通会議 会議録

## 開催概要

- 日 時 平成 29 年 10 月 16 日（月） 午前 10 時～11 時 30 分
- 場 所 滑川市役所本館 3 階大会議室
- 出席者 委員 17 名

## 出席状況

### ■委員名簿

選出区分	団体名・役職名	氏名	出欠等
学識経験者	富山国際大学現代社会学部教授	長尾 治明	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川市自治会連合会長	澤田 隆之	本人出席
住民又は利用者の代表	悠友クラブ滑川会長	柿澤 清喜	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川市小中学校 P T A 連合会長	石坂 教洋	欠席
住民又は利用者の代表	滑川市民生・児童委員協議会長	砂子 良治	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川市連合婦人会長	原 洋子	本人出席
住民又は利用者の代表	滑川商工会議所専務理事	森 忠雄	本人出席
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表者	富山地方鉄道株式会社 自動車部副部長（運行管理課長）	藤城 哲治	本人出席
一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者の代表者	㈱佐々井タクシー代表取締役 (コミュニティバス運行業務委託業者)	佐々井 光國	欠席
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体の代表者	富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長	石橋 剛	代理出席 石田 康博
鉄道事業者の代表者	あいの風とやま鉄道株式会社 総務企画部企画課長	寺井 宏友	本人出席
鉄道事業者の代表者	富山地方鉄道株式会社 鉄軌道部運転管理課長	清水 浩二	本人出席
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長又はその指名する者	北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送・監査担当）	中村 幸春	本人出席
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長又はその指名する者	北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官（企画調整担当）	山岸 忠政	本人出席
富山県滑川警察署の職員	滑川警察署交通課長	堀田 浩範	本人出席
富山県の職員	富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長	長田 知	代理出席 木田 猛
富山県の職員	富山県新川土木センター 工務第一課長	川口 歳則	代理出席 田近 智憲
滑川市の職員	滑川市副市長	石川 忠志	本人出席
滑川市の職員	滑川市産業民生部長	碓井 善仁	本人出席

### ■事務局

産業民生部生活環境課 黒川課長、平野係長、谷川係長

## 会 議 次 第

- 1 開会
- 2 協議事項
  - (1) アンケート調査結果
  - (2) 上位・関連計画及び公共交通の利用環境
  - (3) 市内公共交通の課題整理及び先進事例・類似事例の整理
- 3 閉会

## 会 議 録

### 1 開会

#### 【事務局】

ただいまより、「平成 29 年度第 2 回滑川市地域公共交通会議」を開催いたします。皆様には何かとお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます、生活環境課長の黒川です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、石坂委員及び佐々井委員はご都合により欠席されております。

～ 資料確認 ～

本会議の座長につきましては、前回に引き続き長尾委員にお願いしたいと思っておりますので、委員の皆様のご了承を賜りたいと思っております。

それでは、長尾委員、座長席へお願いいたします。

### 2 協議事項

#### 【長尾座長】

第 1 回の会議が 7 月 3 日に行われ、その際は網形成計画の策定スケジュール及び地域交通の現況整理、アンケート調査の実施について協議を行ったところです。本日は第 2 回会議として、3 つの協議事項について円滑に進めていきたいのでご協力を賜りたいと思っております。

それでは、協議事項 2 の(1)アンケート調査結果について、事務局より説明をよろしくをお願いいたします。

#### 【事務局】

(1) アンケート調査結果

～ 事務局説明 ～

#### 【長尾座長】

ありがとうございました。では、ただいまの説明に対してご意見、ご質問等あればよろしくをお願いいたします。

### 【山岸委員】

アンケートの調査集計、お疲れ様でした。このアンケート調査でしか分からない情報があると思いますし、それを確認するために調査されたのだと思います。ポイントとしては、市民の皆様が「どこからどこへ」動いているかという移動情報が大変重要であると思います。このあたりについては、移動実態の観点から今も分析いただいておりますが、さらに詳しく分析をしていただきたいと思います。今回のアンケート調査で得られた情報を今ほど配布いただいた追加資料で詳しく取りまとめていただいているので、そこから分析をしていただき、網形成計画の策定に向け各取り組みや事業などの具体化に活用していただき、網形成計画の実効性の向上につながれば良いと思います。

### 【長尾座長】

「どこからどこへ」という移動情報については、これに関してはさらに掘り下げる可能性はあるのでしょうか。

### 【事務局】

今ほどのご指摘について、今回の資料においては分析が不十分な点が多々あったかと思っております。ご意見についてはもっともであると思っております。アンケートの中の具体的な目的地、利用手段及び個々の改善要望につきましては、今後できるところまで分析するような格好でアンケート設計をしていますので、できる限り分析は行っていきたく思います。今後個々の改善要望をさらに深掘りし、第3回交通会議で提案をお示しできればと考えています。

### 【柿澤委員】

資料1の5ページにおいて設問に「買物、通院等」とありますが、高齢者の場合、外出する目的は買物、通院だけではなく別の理由の外出機会もあると思いますし、そのときの交通手段（の利用）も考えられると思いますが、それは別の項目もしくは別のアンケートなどでカバーできるのでしょうか。例えば、趣味の会や教室などの日常的な外出もされていると思いますが、それはデータのどこに表れているのでしょうか。

### 【事務局】

アンケートの設問は「買物、通院、その他」と項目分けをしており、なおかつ、買物ではどのお店、通院ではどの病院、その他では施設名等を記入していただく格好のアンケートにしておりますので、そこから買物、通院以外の移動についてもできる限り分析していきたく思います。

### 【長尾座長】

「その他」の中に趣味や教室などの施設名称も書かれていれば「その他」の内容も分かると思うので、そこから少しは分析できると思います。全体の量としては、その他目的は13%となっていますが、その中でどのような外出目的があるか拾い出すことは可能だと思います。次回までに掘り下げて皆さんに回答を示していただければと思います。

**【柿澤委員】**

例えば、健康センターや総合体育センター、温水プールなど色々な施設があると思うので、そのあたりの利用も含めて分析してください。

**【長尾座長】**

ご指摘の点については、次回までにデータを少し分析して示していただければと思います。

**【中村委員】**

外出について、通勤通学、買物、通院のそれぞれの移動手段で「家族等による送迎」という選択肢があり、どこまでの送迎だったのかを聞いているが、その部分まで触れられたのは何か理由があるのでしょうか。

**【事務局】**

家族による送迎で、目的地までと駅・バス停までに分けて表記しているが、駅・バス停までの送迎であれば、その後は公共交通の利用が想定されるという意図で、逆に目的地まで送迎ということであれば、公共交通は使っていないということで分けて質問しています。

**【長尾座長】**

(5 ページで見れば) 駅・バス停までの送迎よりも目的地へ直接送迎される方が 85% と多くなっています。

**【中村委員】**

公共交通を使っている人と使っていない人を分けたという意味で理解しました。

**【長尾座長】**

自家用車が圧倒的に多く、それに応じて送迎も目的地までの利用が圧倒的に多いと理解できます。

他はいかがでしょうか。大体ご質問、ご意見はよろしゅうございますか。

今後、事務局で分析等を進めていただくわけですが、先程頂いた視点に関しては、次回お示しできるように事務局でデータ整理をしていただきたいと思います。

では、次の協議事項に移ります。協議事項(2) 上位・関連計画の整理、及び、(3) 市内公共交通の課題整理及び先進事例・類似事例の整理について、事務局より説明をお願いします。

**【事務局】**

(2) 上位・関連計画の整理

(3) 市内公共交通の課題整理及び先進事例・類似事例の整理

～ 事務局説明 ～

### 【長尾座長】

ただいま説明いただいた部分に関してご質問やご意見を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

### 【山岸委員】

資料2の13ページにおいて、観光施設の状況を分析いただいています。先ほど事務局からも、さらに色々分析をしていきたいという旨のお話をいただいたことを前提に話をさせてもらうのですが、各観光施設いずれもコミュニティバスでのアクセスは可能となっていることは示されていますが、アクセスはあるものの、中を楽しんでまた戻るのにちょうど良い時刻となっているかを含めて調査されると、より深掘りされたものになると思います。また、図の観光施設の場所の写真番号を地図内にも分かりやすく示してはいかがでしょうか。

資料3の2ページで、今後検討する施策体系の案についてご説明いただいたところですが、網羅的に示されているところです。この部分については、同じ話の繰り返しになりますが、アンケート情報やデータをさらに分析で深掘りいただいて、網羅的な施策体系からさらに具体性のある形で組み立てていただければ良いと思います。

### 【事務局】

観光施設の関連で、コミュニティバスがアクセスできる形でバス停を設けて毎日運行している訳ですが、毎日どこで何人乗降があるという集計もあるので、コミュニティバスのデータから見る観光施設の利用状況と、あとは観光施設側から見たデータで何曜日に観光客が多いなども見極められれば、その整合性も分析していきたいと考えています。

それと、今後検討する施策体系は、案として書いています。先ほど申しましたとおり第3回の公共交通会議の中で、網形成計画の素案もお示ししたいと思っており、その中である程度具体的な内容もお示しできればと考えております。

### 【柿澤委員】

この計画の進め方は、主にアンケート調査すなわち利用者の立場から分析していると思いますが、市だけでなく色々な行政機関の他の施策からのアプローチも必要ではないかと思われ、そのあたりも少し触れていただく必要があるのではないのでしょうか。例えば、立場上申し上げると、高齢者の免許返納率をもっと上げる必要があるという立場の部署もある訳で、それに対して「のる my car」も措置されている訳ですが、どう対応するか、コミットもまだまだあるのではないのでしょうか。他の委員会に出席していると、高齢者が自宅でいつまでも生活できるようにという中で、足の確保が1つのテーマとなって問題提起をされている部署もある訳で、そういう意見をどうくみ取っていただくか。色々に関連する部署はまだまだあると思われるので、そのあたりの施策とのすり合わせをもう少し見ていただければと思います。

### 【長尾座長】

交通の（担当）職員だけでなく、それと関連する、例を挙げていただいた高齢者の視点でどういうふうに今後事業を積極的に進めていくべきか、関連部署との絡みの中

でどうあるべきかという視点も資料3に盛り込んでいただけないか、という意見でありました。総合的な見方をもっとしていくべきではないかということです。部署間の連携は難しい部分もあるとは思いますが。

#### 【事務局】

高齢者の免許証自主返納制度は同じ生活環境課で実施しておりまして、現在は70歳以上の方が自主返納をされた場合、3年間の「のる my car」フリーパス（をお渡しする制度になっており）、コミュニティバスの利用促進につながる制度にしております。ただ、柿沢委員からのご意見を聞きながら、もっとコミュニティバスを利用しただけのような、（有効）期間の延長など色々なことを検討できると思うので、もう一度検討していきたいと思っております。

高齢者のコミュニティバスの利用促進ということで、今年の4月から福祉介護課において、70歳以上の方に今までは入浴施設の利用券を無料配布していたが、それに加えてコミュニティバスの利用券のどちらかを選択できるような制度にしています。結果として、毎日集計していると、その利用券を利用してコミュニティバスを使っている方が見られ、そういった面では高齢者のコミュニティバスの利用も増えてきていると感じています。こちらから関係課に仕掛ける部分もあろうかと思っておりますが、他課からコミュニティバスの利用促進について意見を頂ける機会も作っていきたく考えていますのでよろしくお願いたします。

#### 【木田委員代理】

少し教えて欲しいのですが、上位・関連計画の中における公共交通の位置付けとして、滑川市総合計画に「本市と富山市とを結ぶ広域的・幹線的な富山地方鉄道路線バスの継続・維持」と書いてありますが、何か滑川市で取り組まれていることがあれば教えていただければと思います。前回も同じことを申し上げましたが、国から滑川市のコミュニティバスに対し年間1千万円近い補助金が入っています。この補助金が入っている理由は、富山から滑川駅まで来ている幹線バス系統があることが理由となっています。今後、網形成計画を策定するにあたって新しい交通を考えていくことも重要かもしれませんが、富山地方鉄道の路線ではありますが、現在あるバス路線を大切にさせていただきたいと思っております。「年間2千万円、市民1人あたり600円の負担」の水準であれば耐えられるというアンケート結果でしたが、この1千万円の補助がなくなれば、単純に市民の負担も1.5倍になるので、こういったところを重要視してほしいというお願いと、そのために取り組みしていることがあれば教えていただければと思います。

#### 【事務局】

今おっしゃったとおり、国の補助金が無くなればコミュニティバスの運行に大変な支障を来すことは目に見えておりますので、富山地方鉄道路線バスの継続維持は絶対の条件と考えております。ただ、具体的な施策については企画政策課が担当しており、その情報はこちらで収集しておりませんので、確認したいと考えています。

#### 【藤城委員】

富山地方鉄道です。路線バスのお話が出ましたが、6月の乗降調査結果によると、滑川地区の方が地鉄バスにどれくらい乗っているかということ、1便あたり平均1人ちょっと、ということで、ほとんど利用されていない現状です。そういったこともご理解いただいて、当社のほうも協力していかねばならないと思いますが、そういった現状もあるということをご理解いただきたいと思います。

**【原委員】**

地鉄のバスは富山まで行くバスと、後ろの海側を走っているバスでしょうか。どのような方が利用されているのでしょうか。

**【藤城委員】**

通勤の方なのではないかと思うが、滑川地区を出て水橋、富山市へ近づけばそこそこ、と言っても少ないが利用はある。滑川地区の区間での乗降は先ほど申し上げたような（少ない）状況です。

**【原委員】**

海側のほうから東高校のほうへ行く路線ではないのですか。もう一つの路線？

**【藤城委員】**

（富山市）水橋、（国道）41号線を通って富山市に入っていく路線になります。

**【長尾座長】**

この路線も傾向としては減っているのでしょうか。

**【藤城委員】**

傾向は把握できていないが、現状が（1便あたり1人ちょっとということ）かなり少ないということです。

**【森委員】**

（路線は）どこからどこまで走っているのですか？

**【藤城委員】**

富山駅から滑川駅前を結んでいます。

**【長尾座長】**

滑川市民の方で認知率はいかがか。知らない方が多いのではないのでしょうか。

**【原委員】**

昔であれば乗っていた方もいると思いますが。

**【砂子委員】**

例えば滑川駅を出たあと、病院のことを考えると済生会（富山）病院、（県立）中

中央病院を經由して富山駅に行くコースがあるとすれば、利用が増えるのかどうか、というようなことを考えないことにはなかなか（難しいのでは）。富山駅へ行くのであれば、あいの風とやま鉄道を使えば良いという考え方しかできないので。

**【藤城委員】**

先程の富山県さんの話は、このバス路線があつての1千万円の補助という話です。

**【長尾座長】**

ルートの見直しや便数の問題、認知率など色々あると思いますので、今後何を検討していくのが良いか、考えていくべきテーマとなると思います。

**【藤城委員】**

先ほどアンケートの中にあつた、「たまに飲んで遅くなったときにバスがあれば便利だ」という意見も良く聞かれますが、そういう考えがある中においては、公共交通なんて維持できないと思います。そういう考えを変えていただかないと。

**【長尾座長】**

今指摘された問題点については課題に含めて整理いただければと思います。他にはいかがでしょうか。大体よろしいですか。また見直しをしていただいてご意見がおありでしたら、メール、FAX、電話なりで事務局へお知らせいただければ、第3回の会議へつなげることができると思います。今日の資料をしっかりと読んでいただいて再度ご意見を事務局へ頂ければと思います。

全体を通して何かありませんでしょうか。よろしいでしょうか。このあとは今日頂いたご意見を事務局でさらに分析、整理していただいて、第3回に備えていきたいと思えます。特に「のる my car」の利用者数が減っているということに関して、今日も利用者数を増やすためにどうすれば良いかということに関連する意見が出ていましたが、そのあたりに対して具体的な施策を今後どう考えていくかという点で第3回は議論が必要だと思います。アンケート結果の中でもその方向性に関連する回答も出ておりましたので、第3回会議では具体的に「何をどう取り組むか」を書いていただくように事務局をお願いしたいと思います。

それでは、以上で第2回会議を終わりにしたいと思います。会長からまとめの一言を頂ければと思います。

**【石川会長】**

大変お忙しい中ご出席いただき貴重な意見をたくさん頂きありがとうございます。アンケート結果を踏まえてこのあと網形成計画のたたき台を作成し、皆さんに議論いただきたいと思えます。アンケートでやはり色々な問題が出てきていると思っておりますが、もともとコミュニティバスは交通弱者のため、バスの中をコミュニティにしながら高齢者の利便性向上のために運行している訳ですが、現実では通勤で時間がかかるとか速達性を求めている方もおられます。また、ここには掲載されていませんが、「市長と語る会」では小中学生のコミュニティバス利用についても必ず意見が出されます。学校まで3～4km離れているところがあり保護者の関心もあること、冬に自転



車で通学している中学生の子どもたちにもバスがあれば良いという意見も聞いています。女性の社会参加を踏まえて学校が終わる時間の送迎が難しいため、祖父母さんが迎えにいらっている例もたくさんあるようです。そのあたりをどういうふうに今後考えていくか。

幸い今回全停留所についてどれだけの乗降があるかというデータが出ておりまして、一概に統合という話にはできないが、どういうふうにしていけばよいか考えていかねばならないし、場合によっては考え方を変えながら、1千万円という国の補助金、だんだん削減傾向にはありますが大事にしていかねばならないと考えております。

それから、議会から、観光ルートを結ぶバスという提案も出ています。現実の乗降を見ると、特にタラソピアやほたるいかミュージアムにバスで訪れる方は非常に少ないんですね。そのあたりをどうやっていくか。観光で見ていただくことも市の重要な政策であり、バスとどう関連付けて進めていくか（考えていく必要があります）。

一番は、是非バスを市民の皆さんに乗っていただきたい。もちろん車社会ですので、車の利便性の中でなかなか車から離れられません。そういう中でも何とかコミュニティバスに乗っていただくためのPR、啓蒙啓発もそうですが、色々な仕掛けも含めながら多くの市民に乗っていただける方策を網形成計画の中で打ち出していければと思います。いずれにしても、色々な課題が出てきているので、ここは（委員の）皆さん方に色々な観点からご意見を頂きながら、市民が利用しやすい、さらに、なくてはならないバスになるように頑張っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3 閉会

#### 【事務局】

長尾座長、ありがとうございました。

また、委員の皆様には長時間に渡り活発に議論いただきありがとうございました。以上を持ちまして、平成29年度第2回滑川市地域公共交通会議を閉会いたします。

皆様方には、今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。本日は、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございました。